

# 彼方 「かなた」

校長通信  
H25.12.4  
Vol.27

【心ひとつに！】  
経営の重点のひとつに「プライド」というのがあります。その中の一項目に「感動の歌声」を入れています。

## ④「感動の歌声」

学級集団で、学年集団で、全校で「歌声」というツールを使い、「心ひとつに」を体現できる活動をつくりたい。聴く者の心を打つ歌声活動にしたい。一人一人が仲間の音を聴き、心のイメージを歌詞に乗せ、震え上がるような魂の歌声を作り上げたい。日々の活動の中で、励まし、高め合う活動にしたい。後輩が先輩の歌声に感動し、涙する表現活動を作り上げたい。聴く人の心に響く、市内の歌声活動をリードする「伝説の学校」をつくりたい。

金曜日に行われた合唱コンクールは、まさにこの

3年3組



重点目に迫る活動ができたと思います。特に三年生は、本当によく頑張りました。早くから登校し、学級で練習したり、他の学級との交流会を行ったりと、「中学校生活最後の…」という言葉をかみしめながら取り組んできた成果が表れました。一年前より半年前、半年前よ

2年5組



り今回と、確実に成長してきました。特に演奏を聴く態度は、今までになく整然としていました。「自分たちだけが頑張った訳じゃない、みんなそれぞれの学級でがんばってきたんだ。だから、今日は静かに演奏を聴き、一緒に音楽を楽しもう！」という雰囲気を感じられて、とても嬉しくなりました。

最優秀賞を獲得した三年三組は、「校長先生！最近何か、みんなで歌ってるのが楽しいんです。」と話してくれた生徒もいるほど、日に日にその歌声が変わってきました。校長室に届く声も日増しに綺麗に大きくなっていました。何より嬉しかったのは、学級での人と人とのつながりが強くなってきたことが、傍目にもはつきりと見えてきたことです。

合唱コンクールの横看板には、「いい顔、いい声、いい心」と書かれています。最後の「いい心」が本当に耕されてこないといい声は出ないし、いい顔にはならないのです。心ひとつにして取り組んで始め

て学級の合唱が創り上げられるのです。逆に言えば、「いい歌」が学級で創り上げられたときは、例外なくその学級全員の心がひとつになっているときなのです。

そして今年度のコンクールは、審査員をお願いした大竹先生や松田先生も「賞」決めに悩みました。どの学年も一学

1年3組



期とは比べものにならないほど、格段にレベルが上がっていました。聴く人達的心を十分に魅了したと思います。

昔、湖北中の三年生が、放課後になると利根川の土手に先生に内緒で集まり、夜練習をしていたそうです。また、湖北地区公民館を生徒が自主的に予約して練習

をしていた時代もあったそうです。いずれにしても学級の歌声に対する思い入れの強さは、昔も今も変わっていないように感じます。歌わされているレベルから自分たちで自主的に取り組もうとすることが、湖北中学校の歌声活動が「伝説の…」といわれる所以なのだと思えます。今年の三年生の変容は、今後語り継がれる素晴らしい伝説の一ページとなりました。この素晴らしい合唱コンクールを創り上げた全校

生徒一人一人に、大きな拍手を送りたいと思います。それと同時に体育祭以降の学校行事をことごとく成功させてきた三年生の頑張りには改めて賛辞を送りたいと思います。

素晴らしい歌声と前向きな姿を本当にありがとうございます！

3年特設合唱団

